



「安心と希望あふれる生活先進県いしかわ」の創造を目指して

石川県知事 谷本 正憲

平成二十二年度の当初予算は、知事選挙（三月）の関係で、時機を逸せず対応すべき事業に限定した「準通年型予算」であったことから、今回の六月補正予算は、新規事業や政策性の高い事業を盛り込んだ、当初予算を肉付けする予算となりました。

その編成に当たっては、本県の個性に磨きをかけ、人やモノの交流を盛んにし、県民の安全・安心を確保する施策などについて、現下の財政状況も勘案しながら、「選択と集中」を念頭に編成したところです。以下、主な施策について紹介いたします。

一 経済・雇用対策の拡充

景気回復の兆しを確かなものとするため、厳しい財政状況にあっても必要な社会資本の整備をできる限り進め、地域経済の下支えを図ります。特に、単独事業については、積極的に事業量の確保に努め、当初予算と合わせた伸び率としては、十七年ぶりの八・九%増という大幅な伸びを確保しました。

加えて、本年三月に策定した「産業革新戦略2010」を拠り所に、将来の本県経済の一翼を担うことが期待される健康、環境分野等の次世代産業の創造に向け、県と県内金融機関が連携して、地域独自の基金としては、全国でも例を見ない百三十億円という大規模な「いしかわ次世代産業創造ファンド」を創設し、意欲ある企業の取組みを後押しします。

二 県民の安全・安心の確保

医師・看護師の確保や救急医療の強化、周産期医療提供体制の強化など、県民の安全・安心の根幹である地域医療提供体制の整備を推進します。あわせて、老朽化が著しい県立中央病院については、新病院の建設に向けた基本構想の策定に着手します。

地球温暖化対策については、これまでも一般家庭など民生部門を中心に、裾野の拡大を図り、一定の成果を上げてきたところです。今後さらに、温室効果ガスの大幅な削減を達成した家庭を認定し、先導的な取組みを普及させることとしています。

また、本年は国連が定めた「国際生物多様性年」です。本県では、里山の利用・保全という観点から生物多様性の確保に取り組んでいますが、折しも、今春にいしかわ動物園で分散飼育をしているトキに待望のヒナが誕生するなど、県民の生物多様性への関心も高まっており、かつてトキが生息していた里山の環境を取り戻す取組みを加速させることとしました。

三 新幹線開業効果を県内全域へ波及

① 推進体制の整備

北陸新幹線金沢開業まであと四年と迫ってきました。新幹線の開業効果を県内全域に波及させるため、官民挙げての体制を整備するとともに、民間が主体となった、地域の魅力向上に向けた自発的な取組みに対する支援制度を創設します。

② 観光誘客について

旅行の動機付けについて、口コミによって決定されるとの調査結果に基づき、本県の観光情報を口コミで伝えていただく、「いしかわ観光特使制度」を創設し、観光地石川の情報発信力を強化します。

③ 地域資源の掘り起こしと魅力アップ

本物志向で史実に忠実に復元を進めている金沢城公園については、石川門の保存修理を進めるとともに本年四月に完成供用しました河北門に続き、橋爪門の二の門と枳形土塀の設計等に着手し、平成二十六年までの金沢城三御門の完成を目指します。

また、市場からのニーズが高い能登山菜やしいたけ、近年漁獲量が激減している七尾湾のトリガイなどのブランド化を推進するとともに、おいしさ日本一の評価を受けた「能登牛」の全国ブランド化に向けた生産体制の確立など、あらゆる分野で新幹線の金沢開業効果を最大限に引き出す取組みを加速させていきます。

④ 能登有料道路などの無料化前倒し

さらに、一般有料道路としては、全国で最も長い能登有料道路など、県内三つの有料道路の無料化を北陸新幹線が開業する一年前の平成二十五年四月に前倒しして実施します。

以上が、重点施策の概要ですが、このほか、厳しい財政状況を踏まえ、新たな「財政の中期見直し」を策定するとともに、現行の行財政改革大綱がおおむね達成されることから、一年前倒しして見直し、改革の取組みを更に進めていきます。